

# 圃場で営農技術磨く

J A おきなわ  
指導員研修会 詳細に土壌分析など

部の営農指導員9人が参加。  
(株)エーエムエル農業経営研究所の武田健顧問が指導。土壌分析や生育診断で追肥設計や処方箋・施肥改善書作成に必要な情報を収集した。

【沖縄】 J A おきなわは、名護市のインゲンと今帰仁村のハウススイカ圃場（ほじょう）で「2013年度営農指導員技術強化研修会」の現地検討会を行った。北部、中部、南



スイカ展示圃場でデータを検証、説明する島袋営農指導員（左から3人目）と圃場主の豊里部会員（同2人目）

営農指導員技術強化研修会は第5次中期経営計画に掲げた地域農業戦略の一環。12年度からスタートした。営農指導部門は、指導員の低年齢化が進み、長年の知識や勘といった技術が継承されにくい状況にある。営農指導員資質向上や生産現場での技術普及体制の強化に取り組み、農家所得向上につなげる目的だ。

インゲン圃場では根元の深さ15センチの土を採取し、水素イオン指数（pH）測定や酸素含有量の測定で土壌分析。葉面形状の確認や根の張り具合などで生育診断をした。

武田顧問はラーメンの麺に例え土中の養分につ

いて「養分が濃いと、根は真っすぐ伸びる。養分が少ないと根は縮れる」と説明し、施肥改善の要点などを説明した。

今帰仁村では、島袋裕也指導員の施肥改善計画を元に栽培実施した展示圃場でスイカを収穫。実行前に11だった糖度は12・9まで改善されたことで、指導技術のレベル

アップを確認した。圃場を提供した「今帰仁ハウススイカ生産部会」豊里友作部会長は「結果ができれば、他の農家も興味を持つだろうと思い、提供した。効果が出ているので、部会員にも普及していきたい」と期待を込めた。30日にJ A おきなわの砂川博紀理事長を訪ね、結果を報告する。